



# 2022年12月期 第3四半期 決算説明資料

2022年11月29日

株式会社やまびこ



# INDEX

<b>1. 2022年12月期第3四半期決算概要</b>	<b>3</b>	<b>3. カーボンニュートラルと当社の開発戦略</b>	<b>22</b>
2022年12月期第3四半期総括	4	中長期の需要見通しと当社の開発戦略	23
2022年12月期第3四半期経営成績	5	=世界最高レベルの環境技術開発	
連結売上高の地域別増減（円換算ベース）	6	① 環境対応技術のイノベーション	24
連結営業利益の増減	7	② バッテリー製品のラインナップ	25
セグメント別経営成績	8	小型屋外作業機械（OPE）における当社手持ち・	26
セグメント別売上高実績（地域別）	9	背負い型作業機の開発戦略を表すイメージ	
四半期別業績推移	10	良く働く作業機としてのバッテリー製品の拡充	27
		やまびこにおける特許出願状況のまとめ	28
		③ アライアンスへの取り組み（一部事例）	29
<b>2. 2022年12月期業績予想</b>	<b>11</b>	<b>APPENDIX</b>	<b>30</b>
2022年12月期通期予想	12	会社概要	31
連結売上高の地域別増減予想（円換算ベース）	13	やまびこの歩み	32
連結営業利益の増減予想	14	業績推移と売上構成	33
設備投資・研究開発費・減価償却費	15	事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	34
業績推移	16	事業セグメント：農業用管理機械	35
株主還元	17	事業セグメント：一般産業用機械	36
やまびこグループのサステナブル経営	18	国内生産体制	37
TOPICS① 第12回 農業Weekへの出展	19	海外生産体制	38
TOPICS② Equipment EXPO 2022への出展	20	主な販売経路	39
やまびこの存在意義	21	海外市場での販売とユーザー	40
		日本市場での販売とユーザー	41
		主なグループ会社の状況	42
		関連指標等	43

# 1

## 2022年12月期 第3四半期 決算概要

## 2022年12月期第3四半期 総括

海外は主力のOPEにおいて、北米でホームオーナーの需要が減少したものの、プロユーザー向け販売が北米、欧州ともに伸長したことにより増収。国内は昨年の補助金需要の反動減となった農機と、新型コロナウイルスの影響が残る産機の低迷が継続し、OPEを含む全てのセグメントで減収。

市場	セグメント	当社状況 (現地販売)	当社販売状況	
国内	小型屋外作業機械 (OPE)		昨年の補助金需要の反動による影響が残るものの、刈払機やパワーブロワが伸長し、前年並みの水準となった。	
	農業用管理機械		昨年の補助金需要の反動減や仕入商品の供給不足に加え、農薬や肥料の価格高騰が影響し減収。	
	一般産業用機械		大規模展示会が再開されたものの、新型コロナウイルス以前の集客に戻るには至らず減収。	
海外	小型屋外作業機械 (OPE)	北米市場		ホームオーナー向け販売が減少したものの、プロユーザー向け販売は堅調に推移した。
		中南米市場		政情不安・経済問題は継続も、新型コロナウイルスの影響により需要は堅調に推移。
		欧州市場		巣籠り需要は一服感も、プロユーザーの高い需要が継続し増収。
	農業用管理機械	北米市場		引き続き穀物価格が高値安定する市場環境に支えられ増収。
	一般産業用機械		資源開発等の需要回復傾向のもと、受注活動強化に努めた結果増収。	

※「OPE」=Outdoor Power Equipment

## 2022年12月期第3四半期 経営成績

- 売上高は、国内は農機が昨年の補助金需要の反動と仕入商品の入荷遅延の継続により販売減少したことに加え、産機の回復が遅れていることにより減収。海外はOPEが北米での価格改定や円安による追い風を受けたほか、欧州での販売が伸長したことに加え、北米の大型農機と産機も好調に推移したことにより増収。
- 営業利益は原材料価格の更なる高騰に対し国内の価格改定が一部遅れたことに加え、北米OPEにおけるホームオーナー向け販売の減少に伴い総原価が悪化したことなどにより減益。経常利益は主に為替が円安に推移したことにより増益となり、それに伴い最終利益も増益。

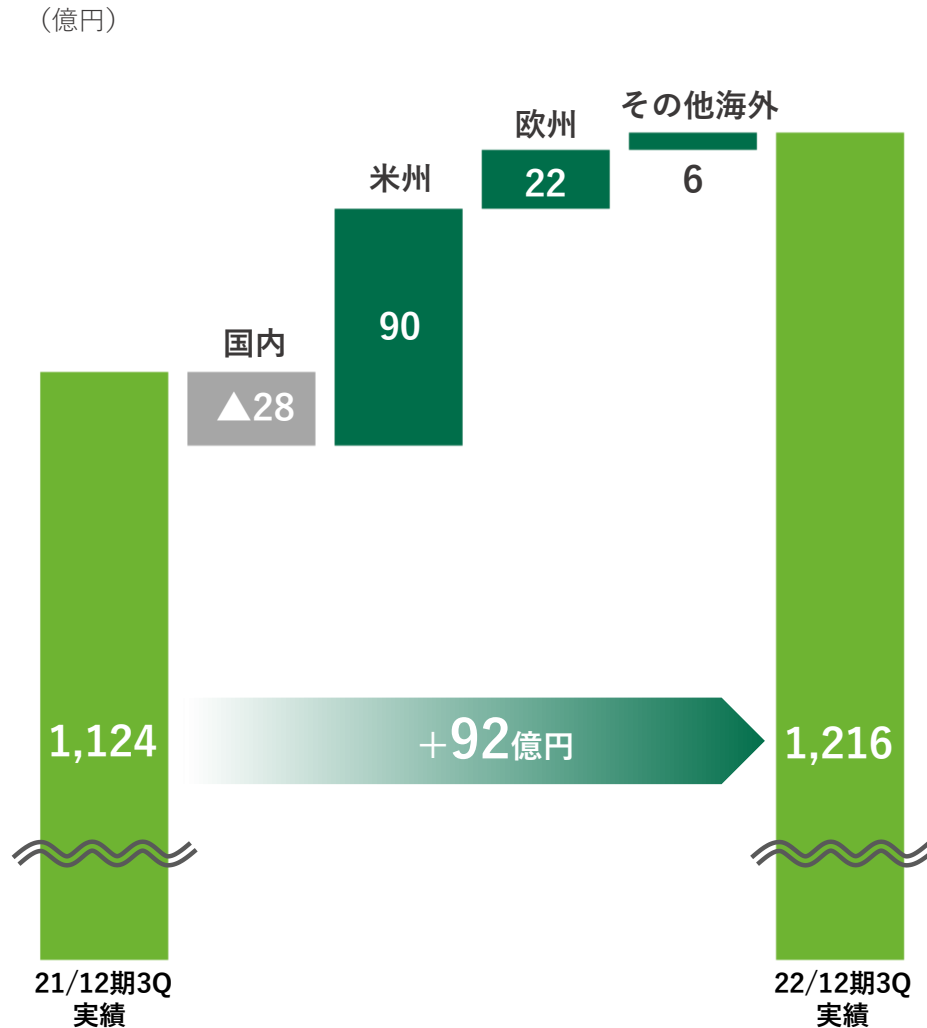
(百万円)	21/12期 3Q実績	構成比 (%)	22/12期	構成比 (%)	前年同期比 (%)
			3Q実績		
売上高	112,435	100.0	<b>121,610</b>	<b>100.0</b>	+ 8.2
売上原価	80,559	71.6	<b>88,576</b>	<b>72.8</b>	+ 10.0
販管費	22,037	19.6	<b>23,558</b>	<b>19.4</b>	+ 6.9
営業利益	9,838	8.8	<b>9,475</b>	<b>7.8</b>	▲ 3.7
経常利益	10,286	9.1	<b>11,022</b>	<b>9.1</b>	+ 7.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	7,726	6.9	<b>8,198</b>	<b>6.7</b>	+ 6.1

※2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、影響は軽微と見て、前年同期比については単純比較で増減を記載しております。

### ■ 為替レート

1ドル	当社レート	108 円	<b>125 円</b>	+ 15.3
	米国子会社 換算レート	109 円	<b>128 円</b>	+ 18.2
1ユーロ		130 円	<b>135 円</b>	+ 4.3

# 連結売上高の地域別増減（円換算ベース）



## 国内

昨年の補助金需要の反動により農機販売が減少したことに加え、産機も新型コロナウイルスの影響から回復が遅れたため減収。

## 米州

北米OPEはホームオーナー向け販売が減少したものの、プロユーザー向け販売が伸長したほか、価格改定や円安の追い風もあり増収。また、農機および産機も好調に推移。

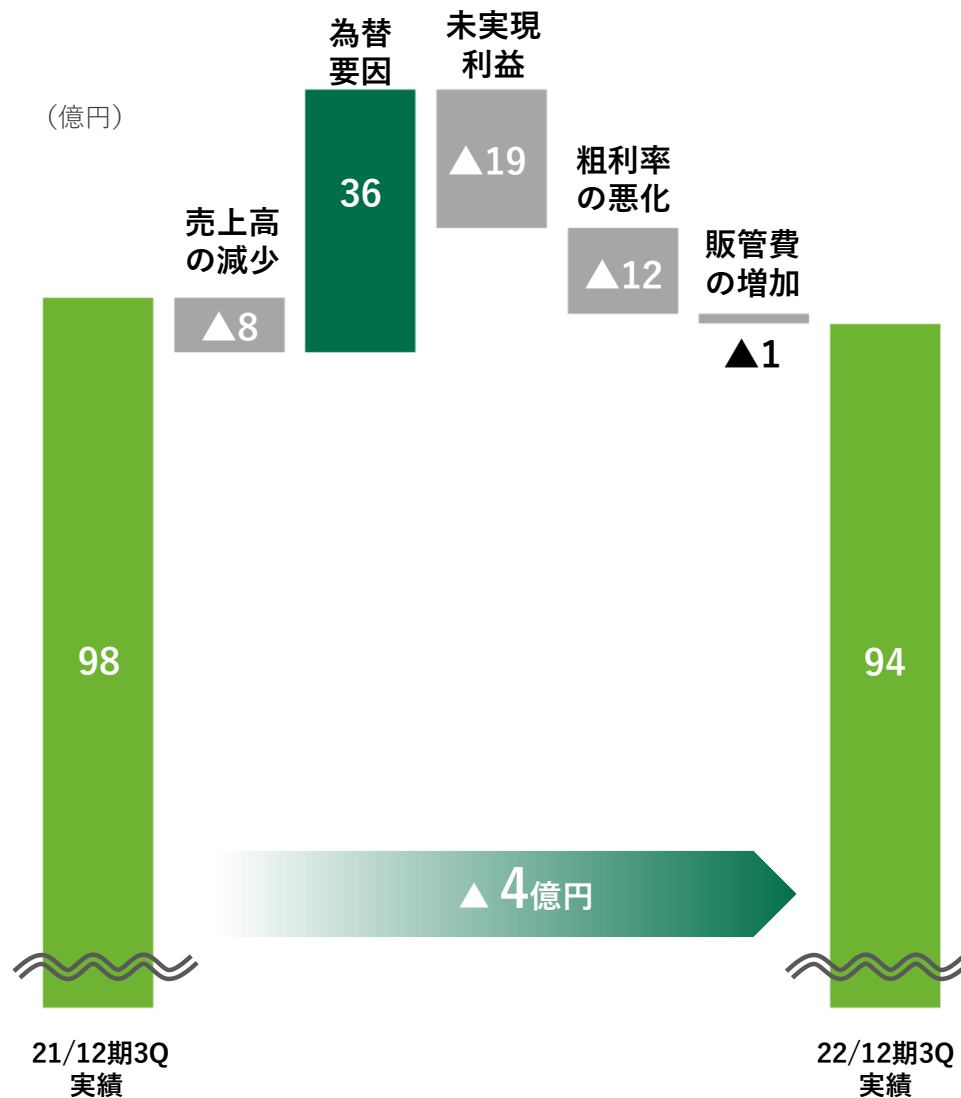
## 欧州

プロユーザー向けを中心にOPE販売が好調に推移し増収。

## その他海外

オセアニアやアジアでOPE販売が増加したことより増収。

# 連結営業利益の増減



## 売上高要因

売上高の減少。

## 為替要因

円安に伴う利益の増加。

## 未実現利益

北米子会社の在庫の増加。

利益への影響額

22年12月期3Q 29.6億円のマイナス  
 21年12月期3Q 10.5億円のマイナス  
 ⇒前期対比19.1億円のマイナス影響

## 粗利率

原材料価格の一段高に対し国内の価格改定が一部遅れたことに加え、北米OPEでホームオーナー向け販売が減少したことに伴い、総原価が悪化。

## 販売管理費

主に人件費の増加など。

## セグメント別経営成績

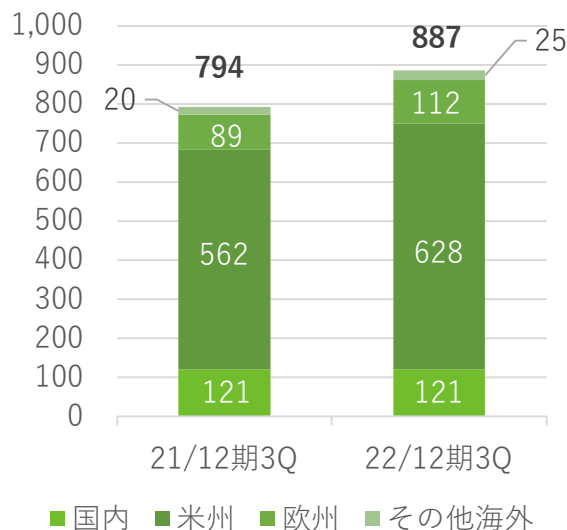
(百万円)	21/12期 3Q実績		22/12期 3Q実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	112,435	100.0	121,610	100.0	+8.2
小型屋外作業機械	79,475	70.7	88,730	73.0	+11.6
農業用管理機械	20,341	18.1	19,802	16.3	▲ 2.6
一般産業用機械	10,892	9.7	11,634	9.6	+6.8
その他	1,726	1.5	1,443	1.2	▲ 16.4
営業利益	9,838	-	9,475	-	▲ 3.7
小型屋外作業機械	13,332	135.5	13,539	142.9	+1.6
農業用管理機械	610	6.2	861	9.1	+41.3
一般産業用機械	449	4.6	931	9.8	+107.1
その他	380	3.9	266	2.8	▲ 29.8
全社共通費	▲ 4,934	-	▲ 6,124	-	-



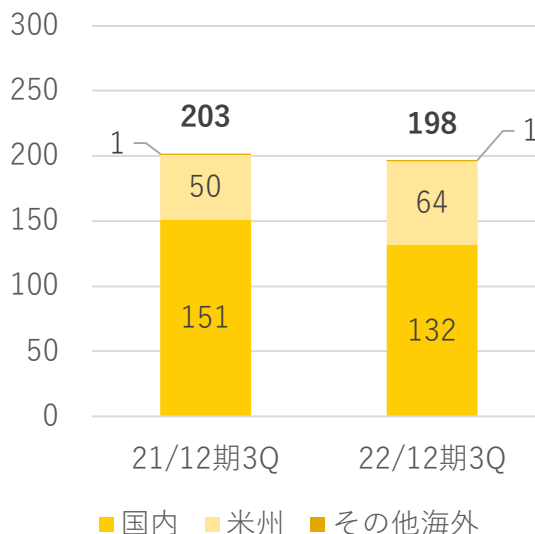
# セグメント売上高実績（地域別）

（単位：億円）

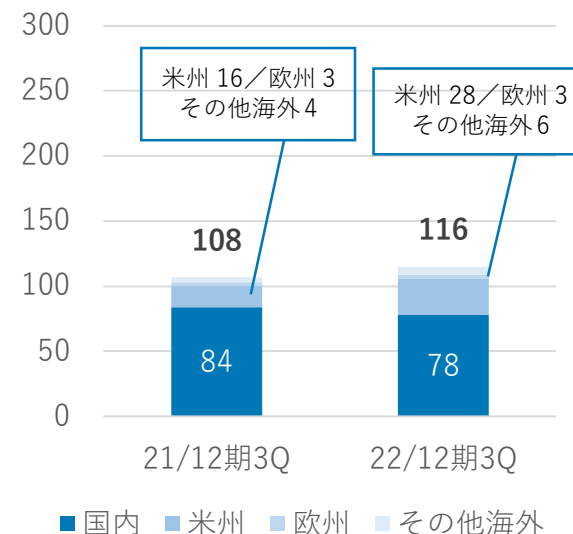
## 小型屋外作業機械（OPE）



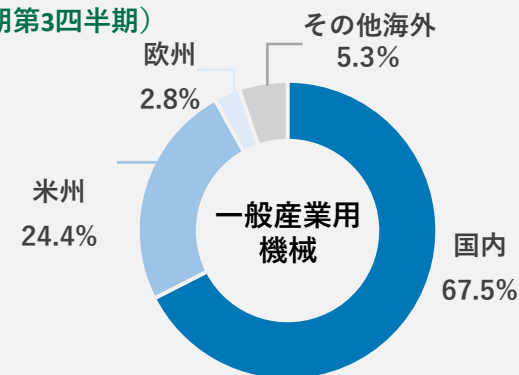
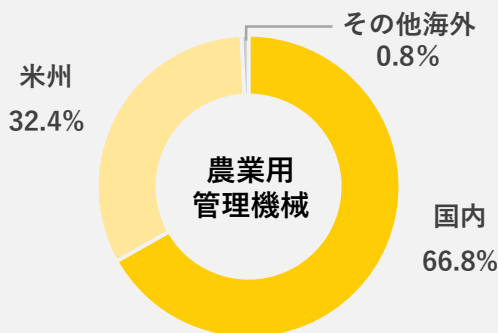
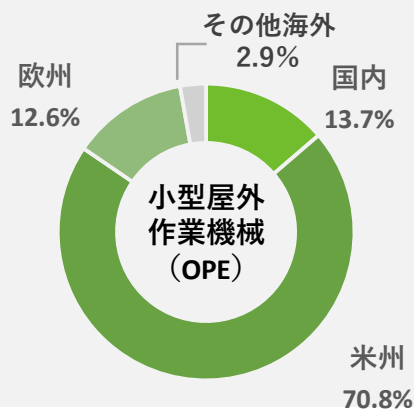
## 農業用管理機械



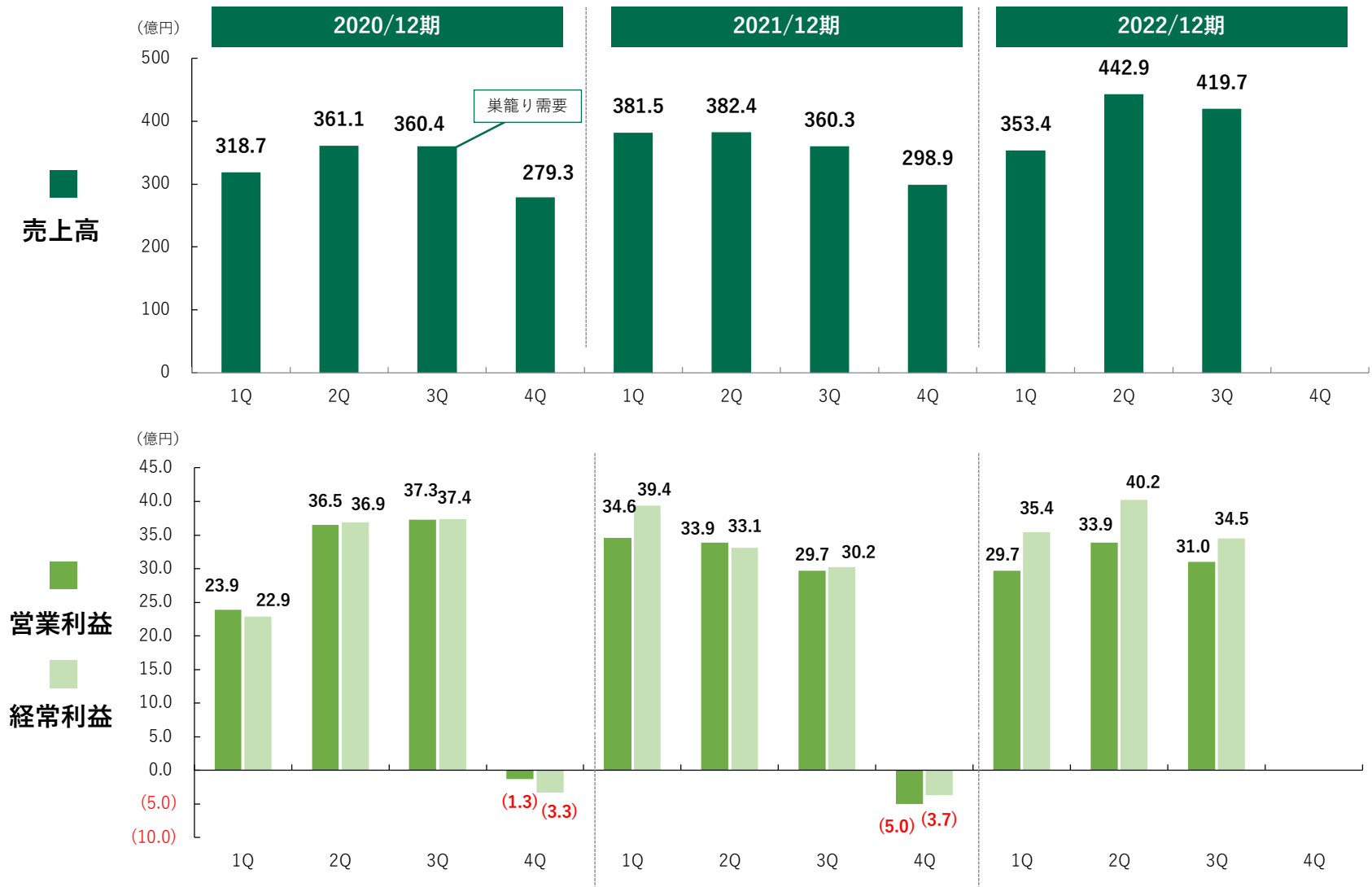
## 一般産業用機械



## 地域別比率（2022年12月期第3四半期）



# 四半期別業績推移



# 2

## 2022年12月期 業績予想

## 2022年12月期 通期予想

- 売上高は、国内が農機および産機を中心に低迷しているものの、海外OPEのプロユーザー向け販売が好調に推移していることに加え、前回の業績予想公表時から更に進行した円安ドル高が売上高を押し上げたことから増収を見込む。
- 収益面においては、原材料価格の更なる高騰に対し国内の価格改定が一部遅れていることに加え、北米OPEにおけるホームオーナー向け販売台数の減少に伴い総原価が悪化していることから、営業利益は減益を見込む。

(百万円)	21/12期 実績	構成比 (%)	22/12期			22/12期 前回予想 8月10日発表
			予想	構成比 (%)	前年同期比(※) (%)	
売上高	142,328	100.0	<b>150,000</b>	<b>100.0</b>	<b>+ 5.4</b>	148,000
売上原価	102,881	72.3	<b>108,900</b>	<b>72.6</b>	<b>+ 5.9</b>	105,800
販管費	30,117	21.2	<b>32,000</b>	<b>21.3</b>	<b>+ 6.3</b>	32,500
営業利益	9,330	6.6	<b>9,100</b>	<b>6.1</b>	<b>▲ 2.5</b>	9,700
経常利益	9,913	7.0	<b>10,300</b>	<b>6.9</b>	<b>+ 3.9</b>	10,300
親会社株主に帰属 する四半期純利益	7,500	5.3	<b>8,000</b>	<b>5.3</b>	<b>+ 6.7</b>	8,000

※2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、影響は軽微と見て、前年同期比については単純比較で増減を記載しております。

### 為替レート

1ドル	当社レート	110 円	<b>140 円</b>	<b>+ 27.7</b>	130円
	米国子会社 換算レート	110 円	<b>140 円</b>	<b>+ 27.4</b>	130円
1ユーロ		130 円	<b>140 円</b>	<b>+ 7.7</b>	140円

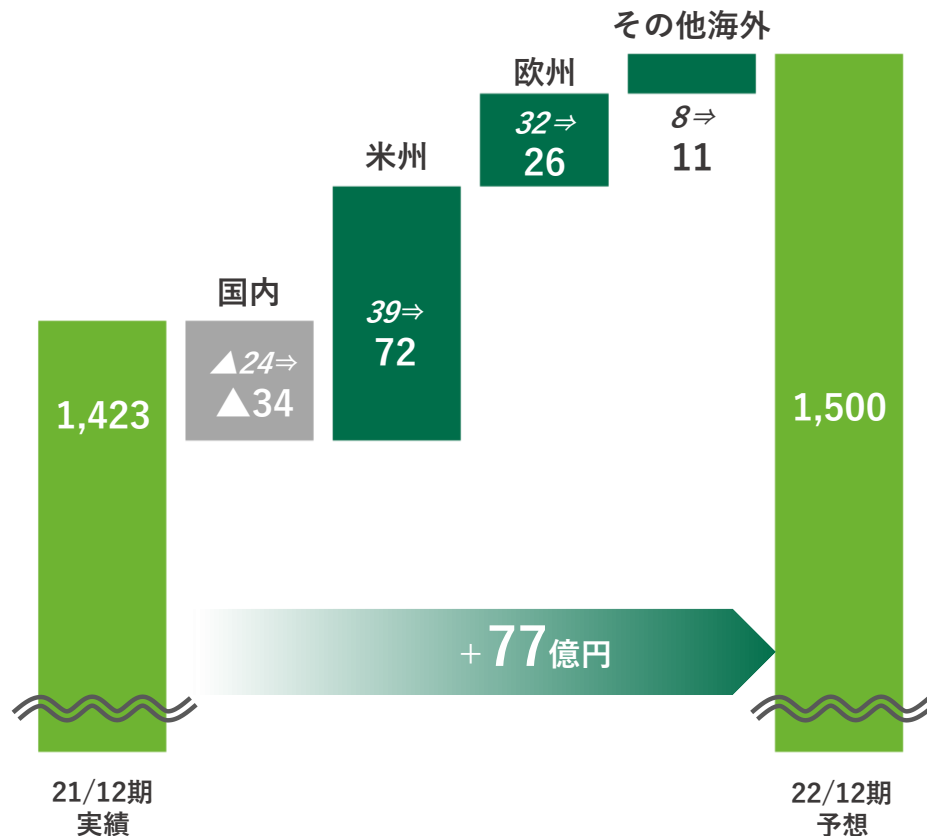
# 連結売上高の地域別増減予想（円換算ベース）

（凡例）

▲24⇒▲34

- 2022年 8月10日 前回業績予想
- 2022年11月14日 修正業績予想

（億円）



## 国内

新型コロナにより販売が落ち込んだ産機の回復の遅れにより減収を見込む。

## 米州

ホームオーナー向けのOPE販売は減少も、プロ向けは堅調。穀物価格が高騰する市況に支えられた農機や新型コロナの落ち込みから回復する産機販売の増加を見込む。前回予想を上回る円安ドル高が寄与。

## 欧州

前回から見通しを下方修正もプロ向けOPEの堅調な需要の継続を見込む。

## その他海外

オセアニアや中近東、アジア向けのOPEと産機販売の増収を見込む。

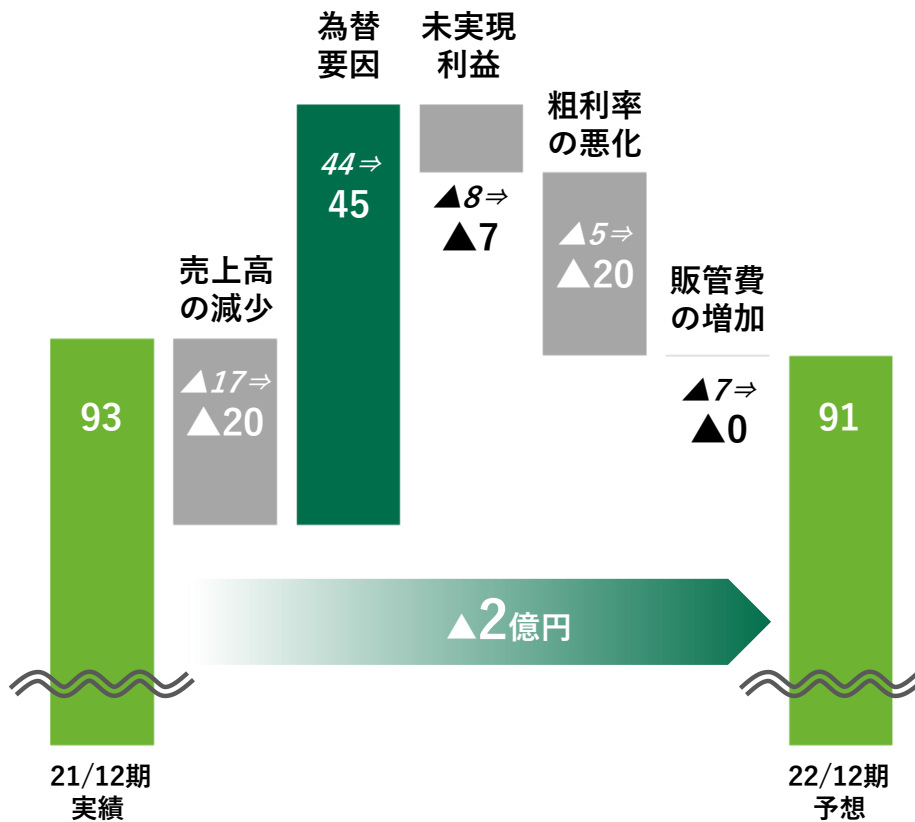
# 連結営業利益の増減予想

(凡例)

▲17⇒▲20

- 2022年 8月10日 前回業績予想
- 2022年11月14日 修正業績予想

(億円)



## 売上高要因

主に国内販売や北米のホームオーナー向け販売の減少。

## 為替要因

円安に推移したことにより利益が増加。

## 未実現利益

北米子会社の在庫の増加。

利益への影響額

22年12月期 26.1億円のマイナス  
 21年12月期 18.9億円のマイナス  
 ⇒前期対比 7.2億円のマイナス影響

## 粗利率

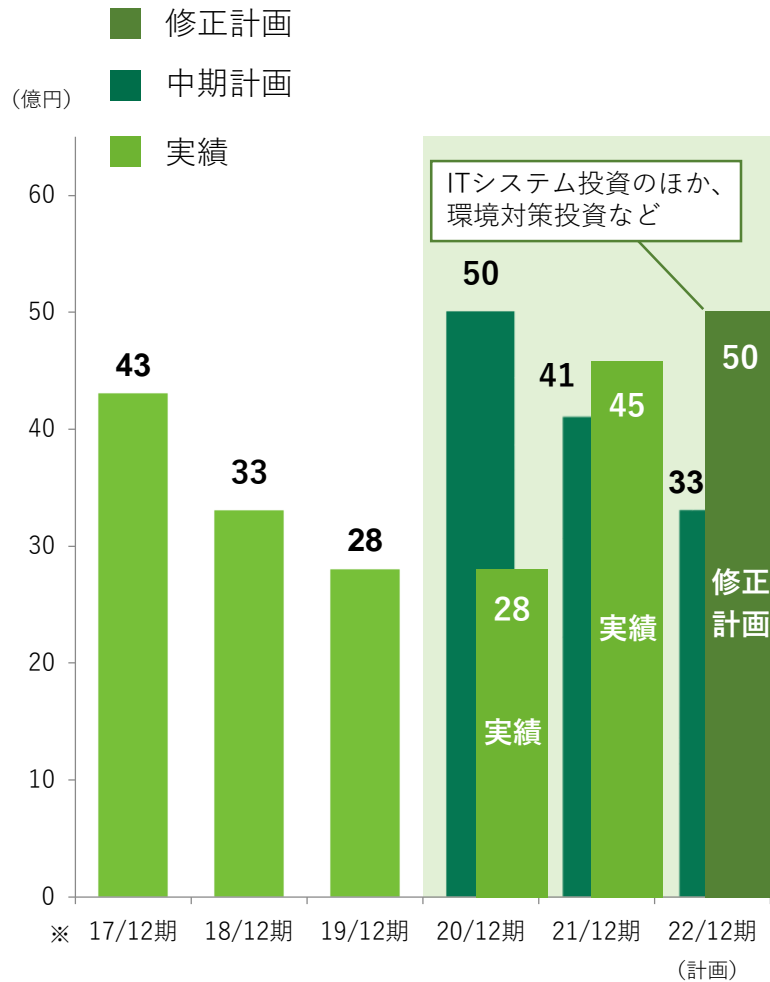
原材料価格の更なる高騰に国内の価格改定が遅れたことで利益を圧迫。

## 販売管理費

国内と北米の販売経費の減少など。

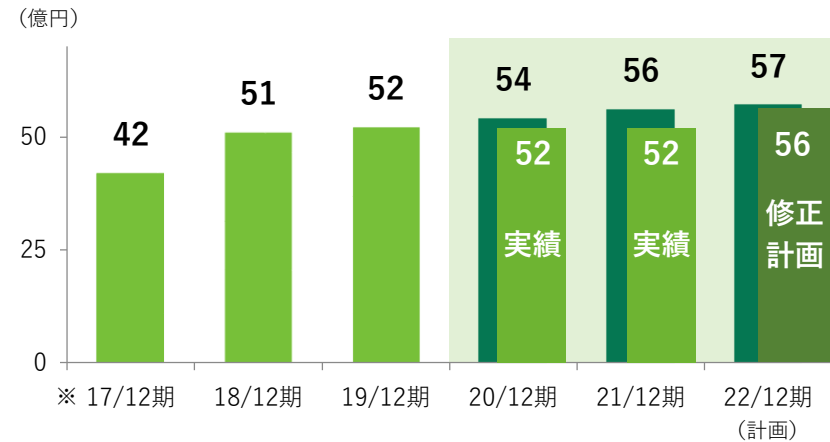
# 設備投資・研究開発費・減価償却費

## 設備投資

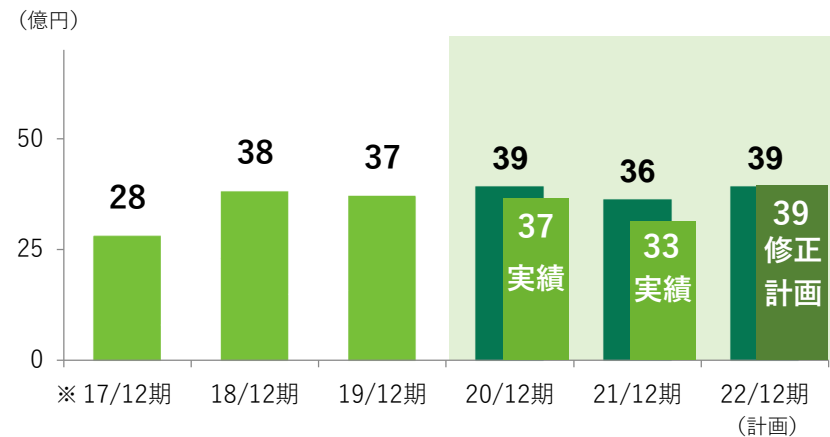


※17/12期は決算期変更のため、9ヶ月決算となります。

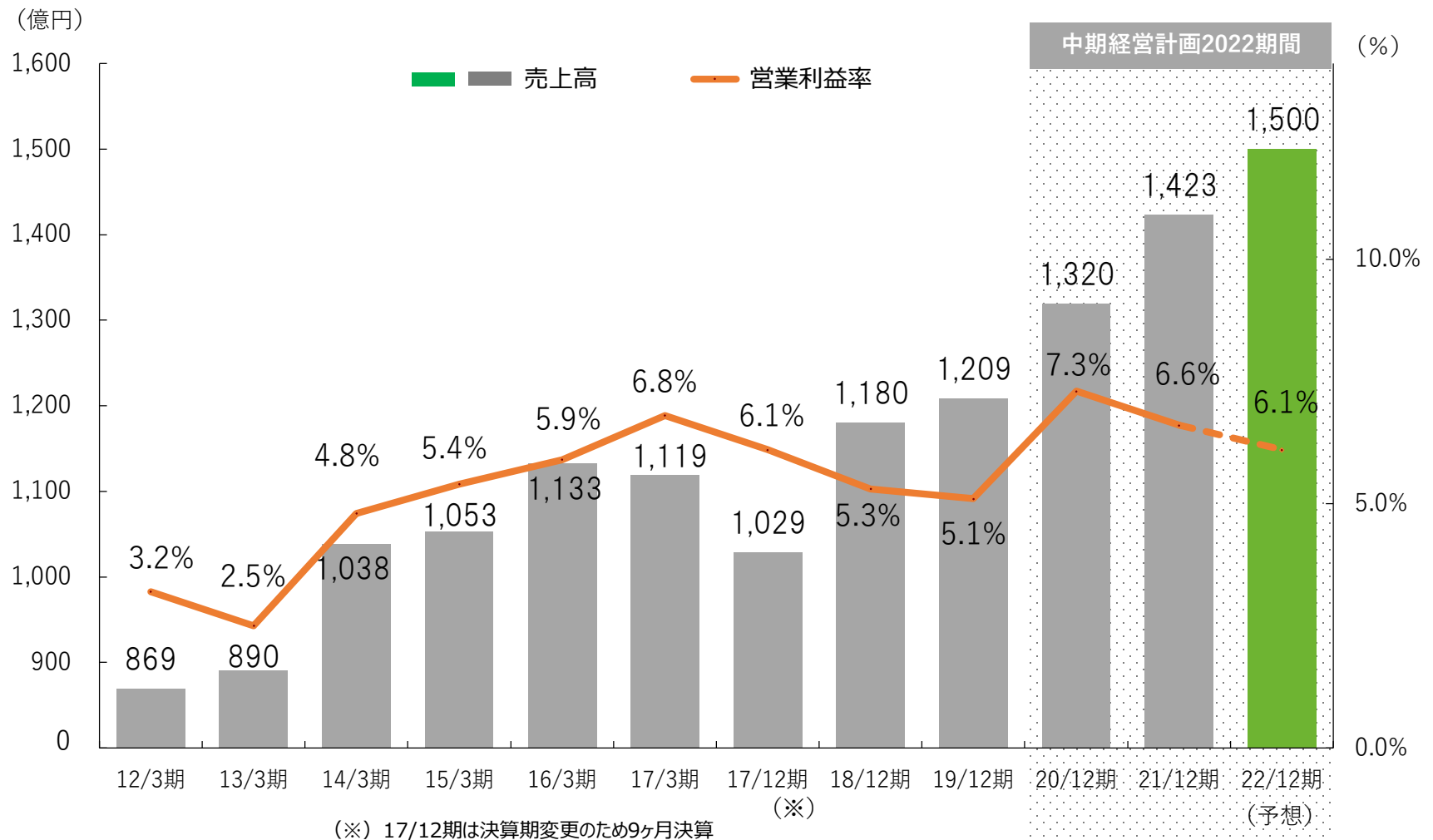
## 研究開発費



## 減価償却費



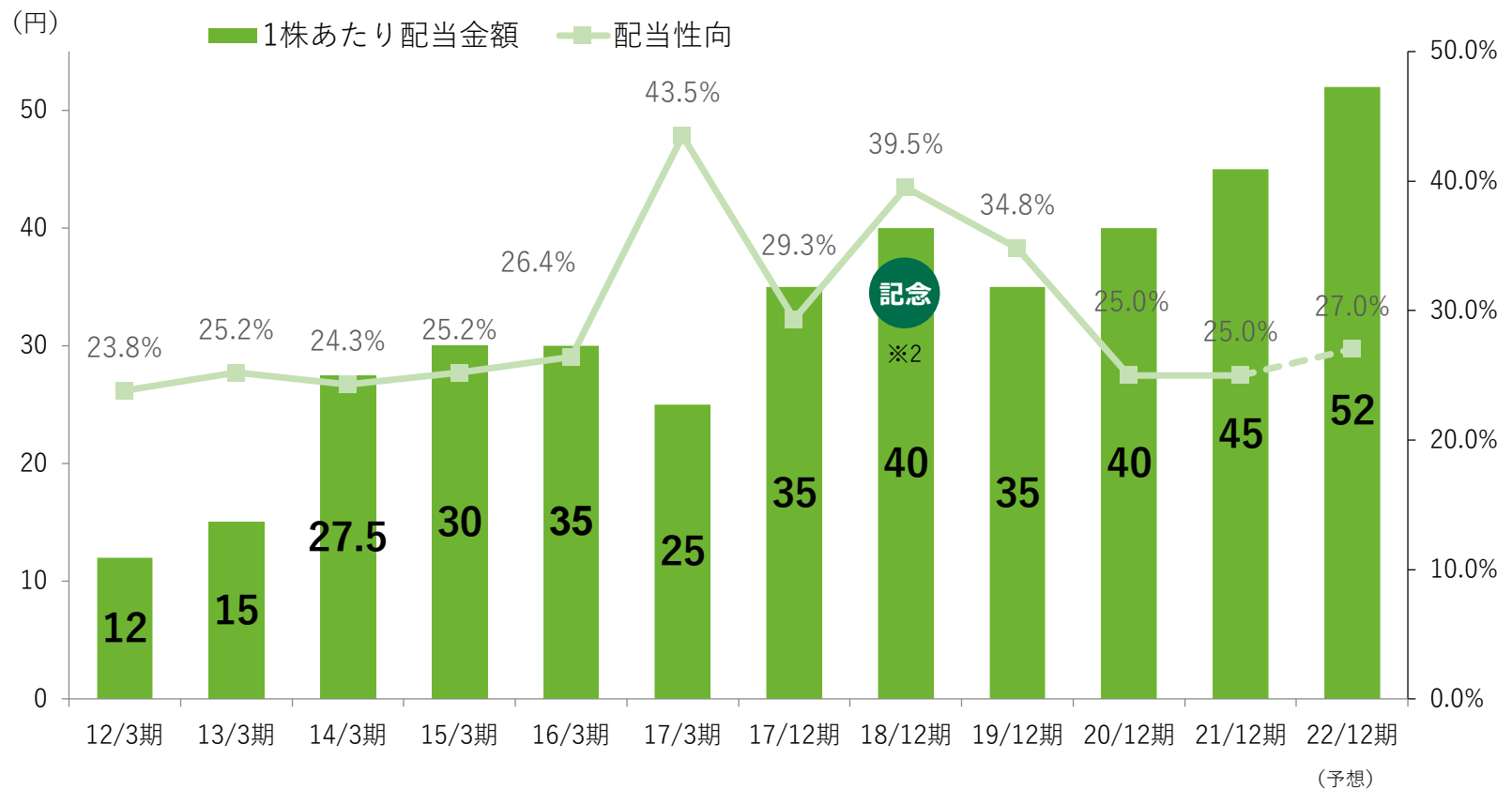
# 業績推移





# 株主還元

- 安定配当の継続
- 連結配当性向25%以上



※1. 2015年10月1日付で株式分割を行っております。各期を比較しやすいように、株式分割考慮後の金額を記載しております。  
 ※2. 設立10周年記念配当5円を含みます。

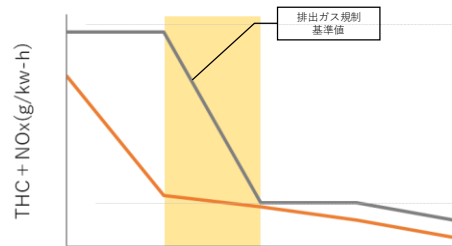
# やまびこグループのサステナブル経営

## ESG課題に取り組み、持続的な企業価値の向上を図る

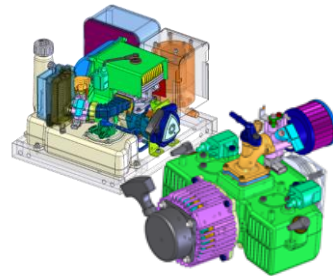
### Environment (環境)

#### ■カーボンニュートラルに向けた取り組み

➢ 世界最高レベルの環境技術と様々なアライアンスを通じて、カーボンニュートラルの実現を目指します



厳しい排ガス規制をクリアしてきた世界最高レベルの環境技術開発に更に磨きをかける



2種類の2ストロークエンジンのハイブリッドシステムの開発



高効率な出力を実現するバッテリーシステムの開発



アライアンスを通じたOPEエンジンに最適なeFuelの開発

#### ■気候変動に対する取り組み

➢ 次期中期経営計画（2023年2月予定）にて、GHG排出量削減策を開示。併せて、TCFD提言に基づく気候変動がもたらす財務的影響を開示します

### Social (社会)

- 安全・安心なものづくり
- ダイバーシティ・働き方改革の推進
- 社会課題（災害・労働人口減少等）を解決する製品の開発・販売

### Governance (ガバナンス)

- プライム企業として期待されるコーポレート・ガバナンス体制の強化
  - 独立社外取締役が半数を占める取締役会、過半数を占める指名・報酬委員会を構成し、サステナブル経営を実現するガバナンス体制の強化への継続的取り組み

## TOPICS① 第12回 農業Weekへの出展

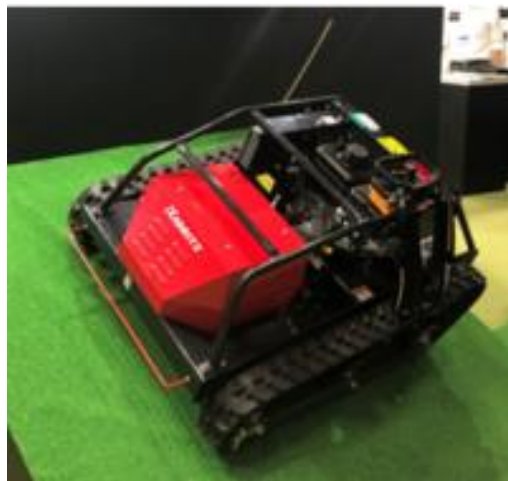
## ■第12回 農業Weekへの出展

2022年10月12日～14日に開催された日本最大級の農業・畜産の総合展「第12回農業Week」に出展しました。

展示会では「やまびこが取り組むスマート製品のご提案」をコンセプトに、当社が開発を進めているスマート製品や新しいサービスについてご紹介しました。当日は多くの方にブースへお立ち寄りいただき、沢山の貴重なご意見を頂戴することができました。



当日のブースの様子  
沢山の方にご来場いただきました



ハイブリッドエンジンを搭載した  
ラジコンモア (RCM600)



稼働データメモリーシステム  
対応の屋外作業機

## TOPICS② Equipment EXPO 2022への出展

### ■Equipment EXPO 2022への出展

米国子会社であるエコーインコーポレイテッド（以下、エコーインク）は全米最大規模の庭園管理機械見本市である「Equipment EXPO 2022」に出展しました。

今年で設立50周年を迎えたエコーインクは、これまでの50年を振り返ると共にこれから先の北米のOPE市場への貢献に向けた、充実のラインアップをご紹介します。

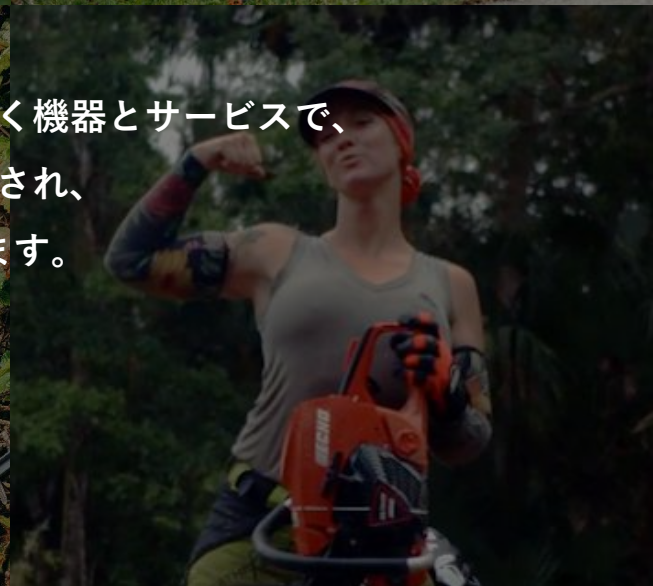
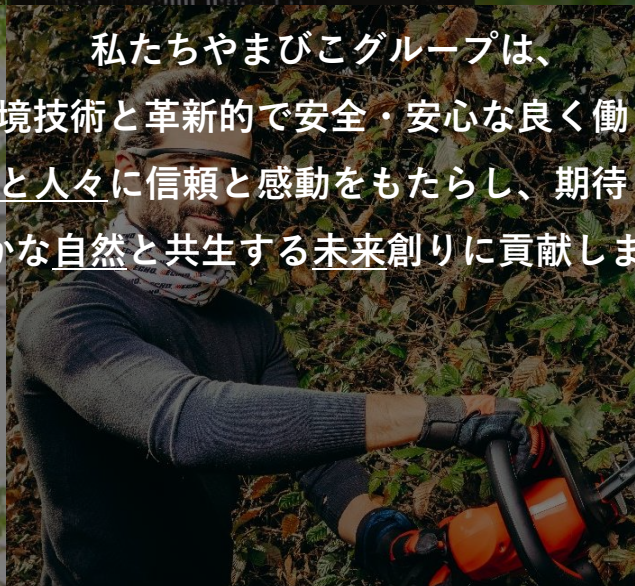


ユーザーの多様なニーズを満たすべく  
エンジンとバッテリーの両方で充実したラインアップを展開

# やまびこの存在意義



人と自然と  
未来をつなぐ



私たちやまびこグループは、  
世界最高レベルの環境技術と革新的で安全・安心な良く働く機器とサービスで、  
社会と人々に信頼と感動をもたらし、期待され、  
豊かな自然と共生する未来創りに貢献します。

# 3

## カーボンニュートラルと 当社の開発戦略

# 中長期の需要見通しと当社の開発戦略＝世界最高レベルの環境技術開発

## 需要見通し

プロユーザー向けエンジン製品の需要は当社のブランド力と環境対応技術が貢献し、堅調に続く見通し

一方で、カジュアルユーザー向けは相応にDC製品化が進むことを見込む

**エンジン・DC含めたOPEの市場規模は引き続き世界的に拡大傾向になることを想定**

## 当社の中長期開発戦略

高効率エンジン

① 排出ガス規制対応、かつ高効率・高出力のエンジン製品開発

電化

② 良く働く作業機としてのバッテリー製品の拡充

再生可能エネルギー

③ リユースEVバッテリー、再生可能エネルギーを活用した製品開発

eFuel

③ eFuel（合成燃料）研究と実用

バイオマス

・高濃度エタノール対応エンジンの研究済

水素

・構想段階

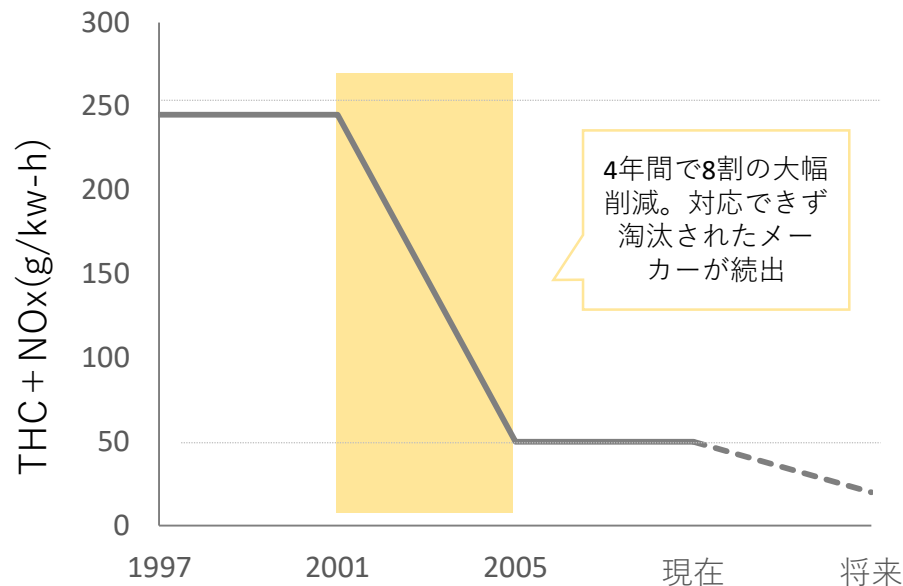
CCUS

・構想段階

# ① 環境対応技術のイノベーション

## 世界最高レベルの環境技術開発に磨きをかける

EPA排出ガス規制の基準値の推移（排気量50ml未満）



4年間で8割の大幅削減。対応できず淘汰されたメーカーが続出

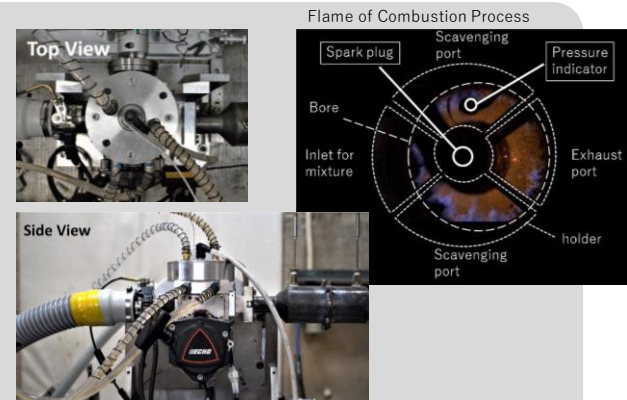
THC=全炭化水素 Nox=窒素酸化物

※EPA = United States Environmental Protection Agency

出典：Electronic Code of Federal Regulationsより当社作成

### 当社の対応

- 開発から資材調達、鋳造、金属加工、機械加工、組立まで世界的にも稀な小型エンジン製造の**一貫生産体制**と**開発力・技術力**を通じて、環境技術開発の量産化を実現している
- EPA認証数は世界でトップクラス



次世代2ストロークエンジン



## ② バッテリー製品のラインナップ

### グローバルDC製品の開発・製造

- 2021年、主力市場にある米国子会社ECHO incにバッテリーR&Dセンターを設立
- 本社と共にグローバルプラットフォームを確立し、本年より本格稼働



### 共通バッテリー



- 共通のバッテリーで使用可能な新たなバッテリー製品ラインナップを北米・欧州・日本市場で本年より展開
- 作業機の使用環境に応える、高出力（56V）と中出力（40V）の2種類を用意
- 独自の制御技術により、バッテリーの熱、充電、放電を管理することで、効率的な出力が可能

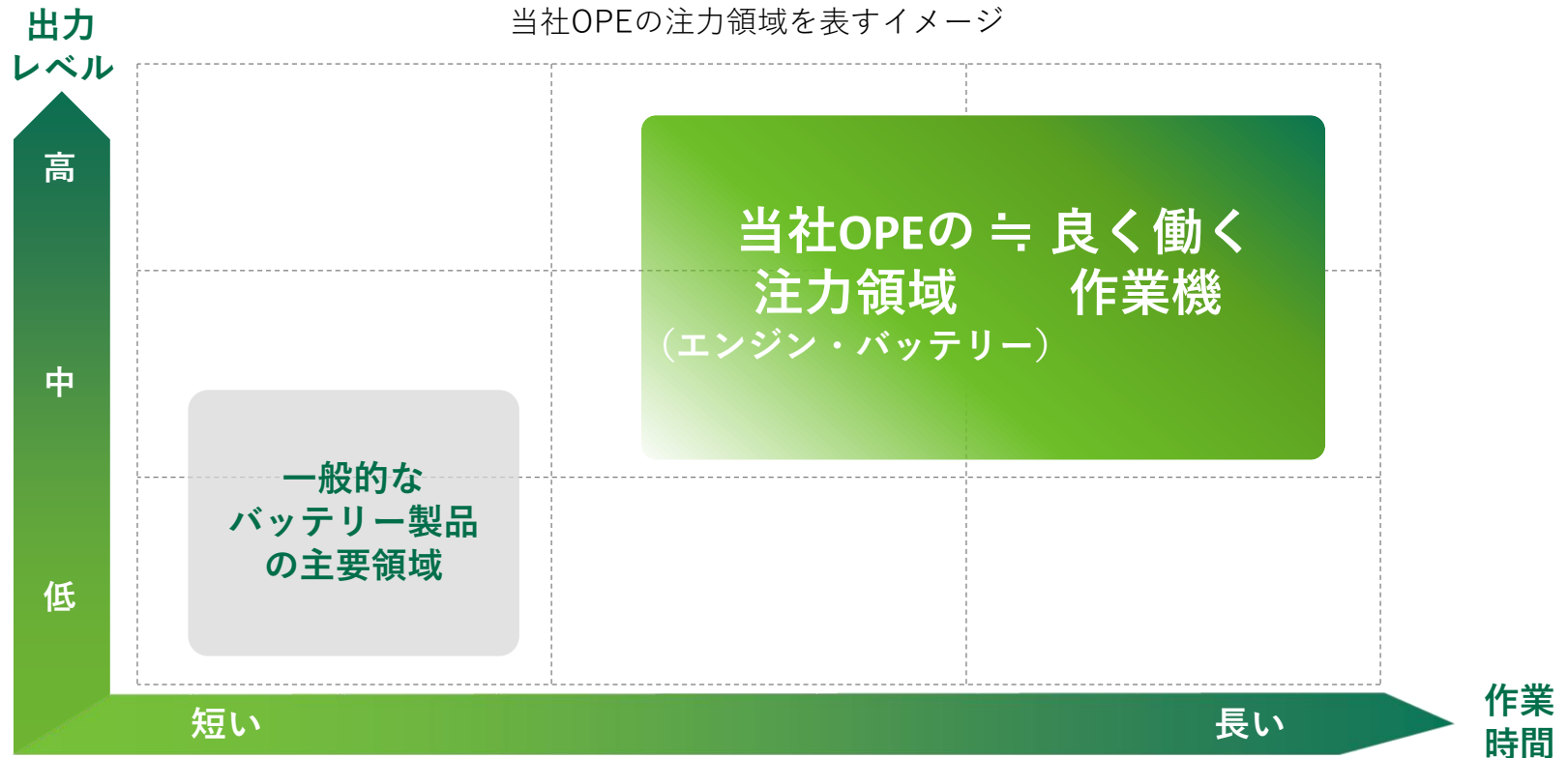
### Xシリーズ

- 高性能で耐久性に優れ、プロユーザーも満足できる「Xシリーズ」で二系統のバッテリー製品シリーズを市場別に展開
- バッテリー製品の「Xシリーズ」は7月に開催された米国代理店会議でも紹介され、代理店から高い評価を得る



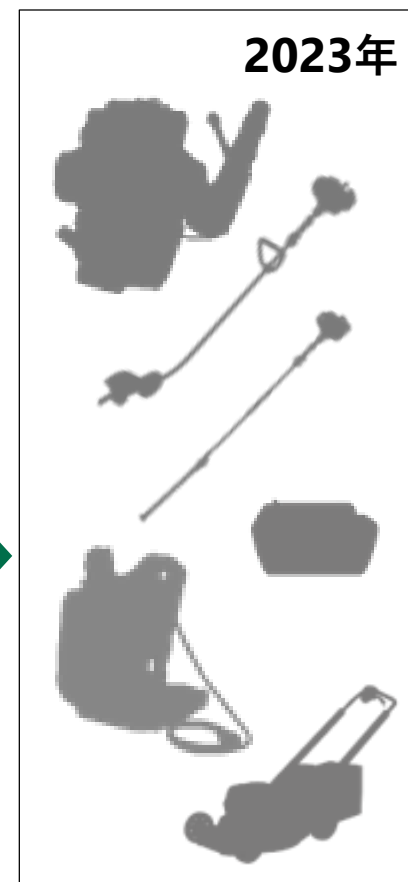
# 小型屋外作業機械（OPE）における 当社手持ち・背負い型作業機の開発戦略を表すイメージ

高い「仕事量」が求められるユーザーや用途が、当社の注力領域。手持ち・背負い型の作業機分野で、排出ガス規制をはじめとするカーボンニュートラルに対応したOPEの開発・販売を推進



出力 × 作業時間 = 仕事量

# 良く働く作業機としてのバッテリー製品の拡充 電動化促進 ～現在の電動製品ラインアップ状況～



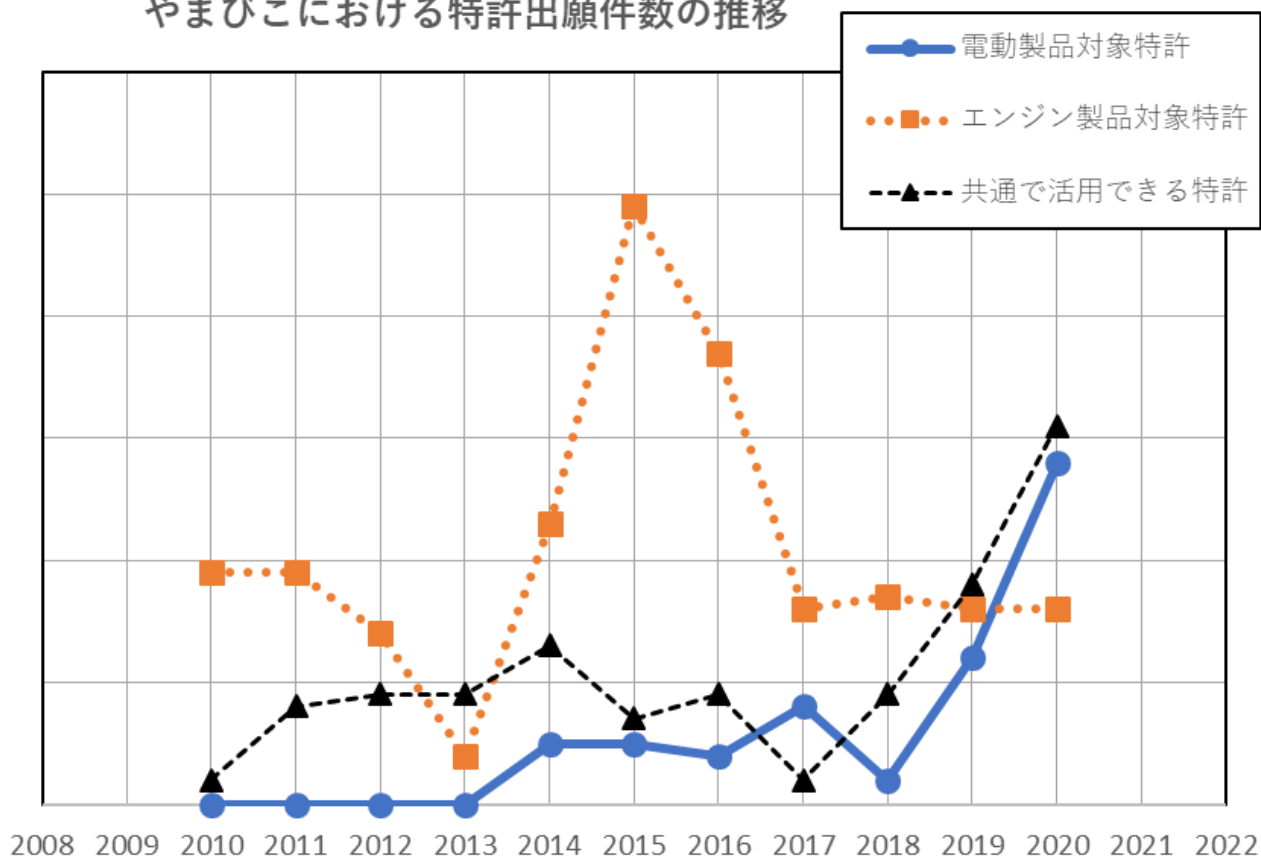
来年度以降  
ラインアップは  
順次拡大予定

# やまびこにおける特許出願状況のまとめ

## 技術分野別出願状況のまとめ ～公開済み案件のみ～

### 2020年に電動製品を対象とした新規出願件数がエンジンを上回る

やまびこにおける特許出願件数の推移



※出願特許の公開時期は出願から18か月後であり、2021年に申請した案件のほとんどが未公開案件の為、集計の対象外。

### ③ アライアンスへの取り組み（一部事例）

#### eFuel（合成燃料）研究

##### eFuel Alliance への加盟



環境対応の合成燃料の普及などを目指すeFuel Allianceに加盟し研究を開始しました

##### イーセップ(株)と 共同研究開発契約を締結



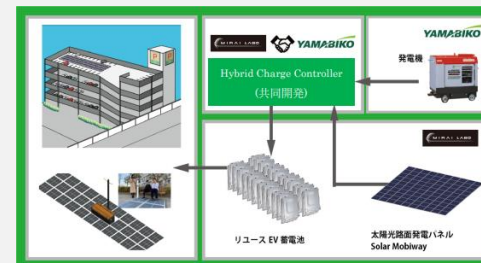
OPEエンジンに最適なeFuelの開発を目指しています

#### 低炭素・循環型社会の実現

##### MIRAI-LABO(株)と 資本業務提携を締結



「ハイブリッド自律型エネルギーシステム」や「屋外作業機の電動化ならびに移動型バッテリー充電システム」の開発・事業化など、「低炭素・循環型社会の実現」に向けた協業体制を強化します



# APPENDIX

## 会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	142,328百万円 (2021年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	15社※ (国内6社・海外9社／2021年12月末現在)
従 業 員 数	3,435名 (2022年6月末現在／連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2022年6月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社2社を除く

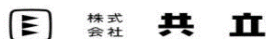
# やまびこの歩み



世界初となる手持ちブロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社が合併。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立



設立 1947年 (昭和22年)



株式会社やまびこ

設立 2008年 (平成20年)

新タイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発



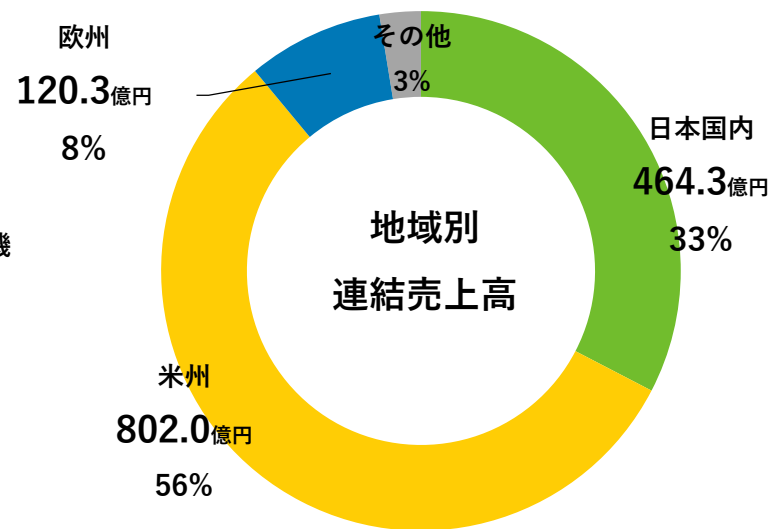
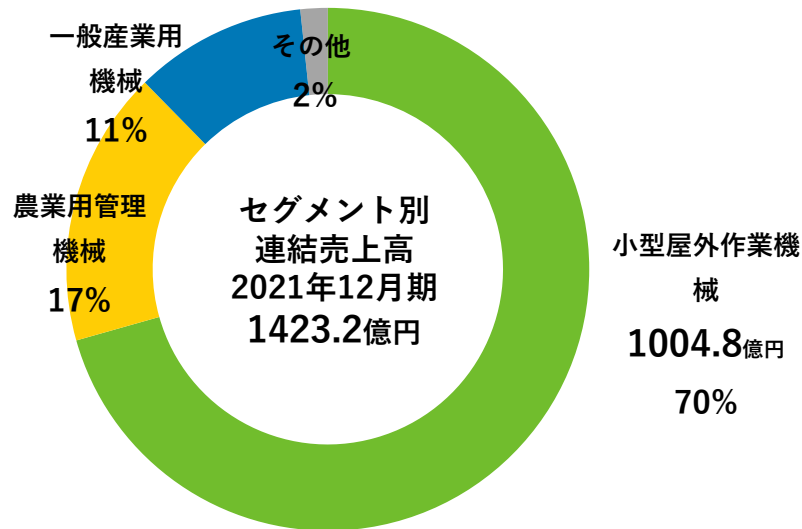
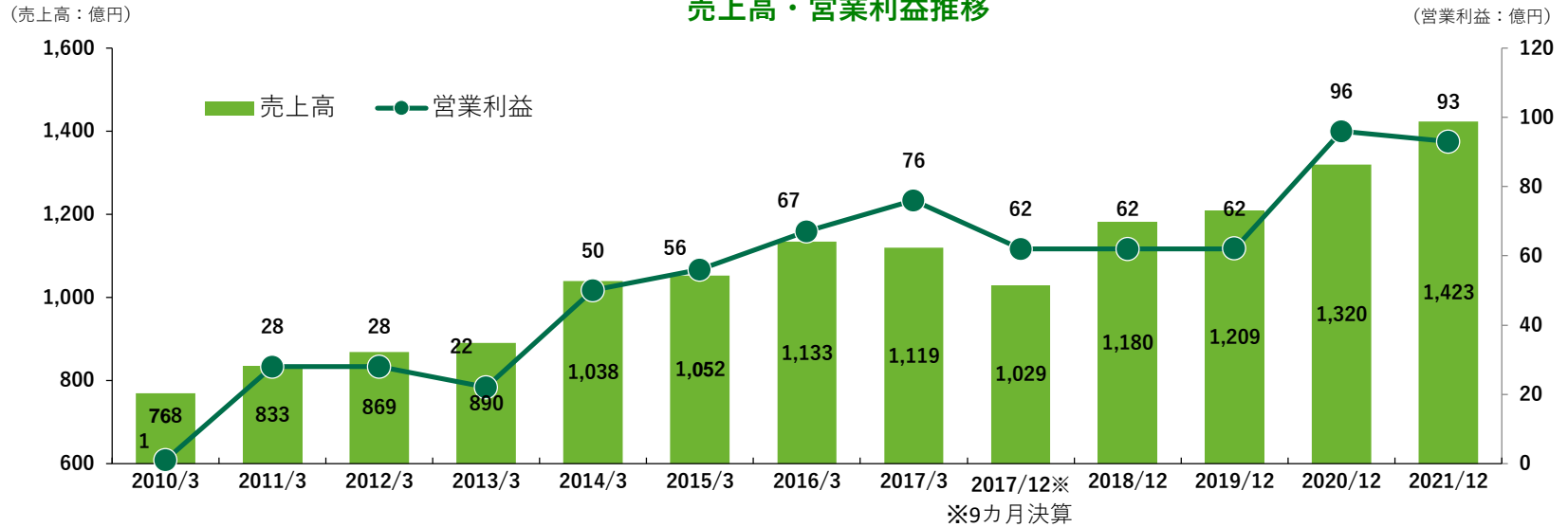
## 社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする



# 業績推移と売上構成

## 売上高・営業利益推移



## 事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

**70.6%**

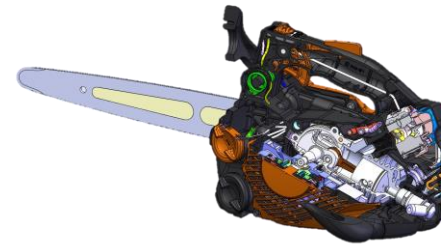
（2021年12月期）

国内は農家・林業家の芝刈や伐木用として、海外は庭や緑地の管理用として用いられる主に「手で持つ」「背負って」使用する小型エンジンなどを搭載した屋外作業機その他、ロボット芝刈機も含む



### 技術的な強み

## 世界最高レベルのエンジン開発力



高い製品  
シェア

日本：30%以上  
※当社調べ

### 高性能・高耐久・高品質エンジン

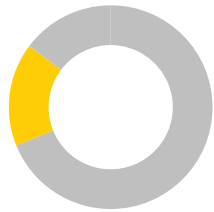
- 小型・軽量・高出力（手持機械に最適）
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

### 小型エンジンに必要な技術を保有

- 鋳造→熱処理→機械加工→組立
- 鉄めっき・放電加工

※Outdoor Power Equipment

# 事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

17.1%

(2021年12月期)

国内における防除機械、  
北米における  
農作物収穫機械の製造販売



乗用管理機



スピードスプレーヤ



畦草刈機



ポテト収穫機（北米）

## 技術的な強み

### 培った防除技術にICTを融合し、 スマート農業に貢献

#### 送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

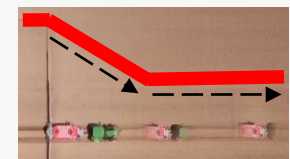


やまびこノズルの  
噴霧状態（扇形状）  
（平均粒子径  
110~270 ミクロン）

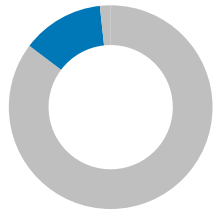


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



# 事業セグメント：一般産業用機械

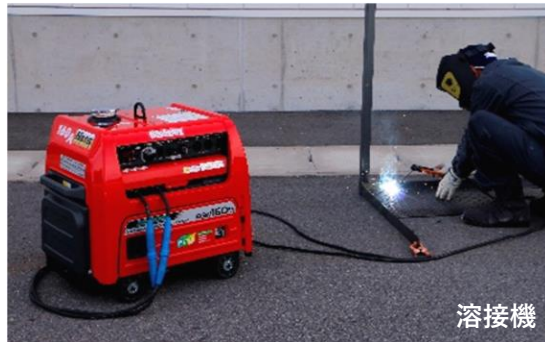


売上高構成比

**10.7%**

(2021年12月期)

建設工事・防災・減災  
イベント向け機械の製造販売



溶接機

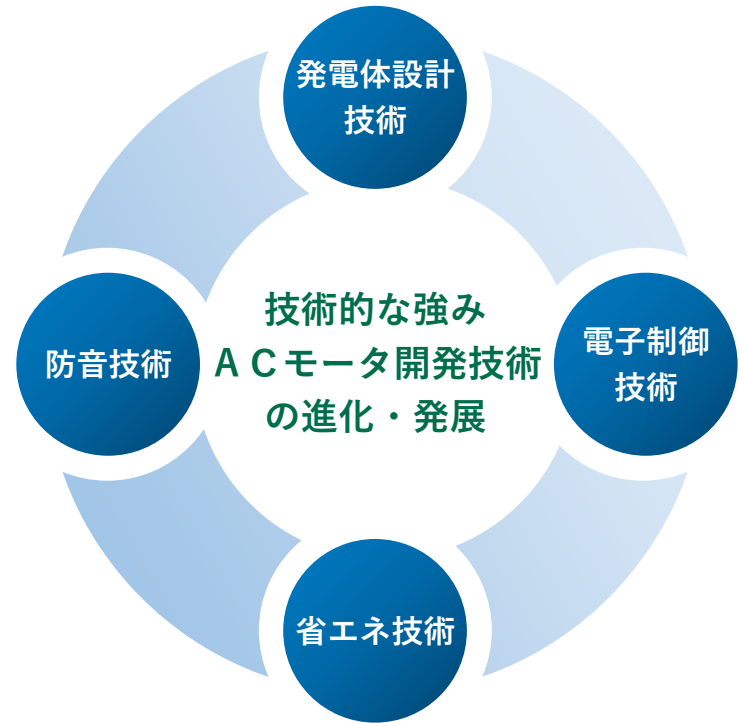


発電機



投光器

## 技術的な強み



世界初の三相/単相3線  
切替なし同時出力可能  
(米国特許・国内特許取得済み)



「ダブルECO」  
低燃費・騒音排出ガス効果に優れ  
た2つのエコ機能の開発

# 国内生産体制

- 生産事業所
- 生産子会社

## 生産本部盛岡事業所

小型屋外作業機械の製造  
 (機械加工・塗装・組立等)  
 防除機の製造 (板金・塗装・組立等)

※ 防除機の搭載エンジンは他メーカーからの調達



## 本社



## 生産本部横須賀事業所

小型屋外作業機械の製造  
 (鋳造・金属処理・機械加工・組立等)



## 生産本部 広島事業所

小型屋外作業機械の製造  
 (機械加工・組立等)  
 発電機・溶接機・電動工具  
 の製造 (組立等)

※ 発電機等の搭載エンジンは他  
 メーカーからの調達

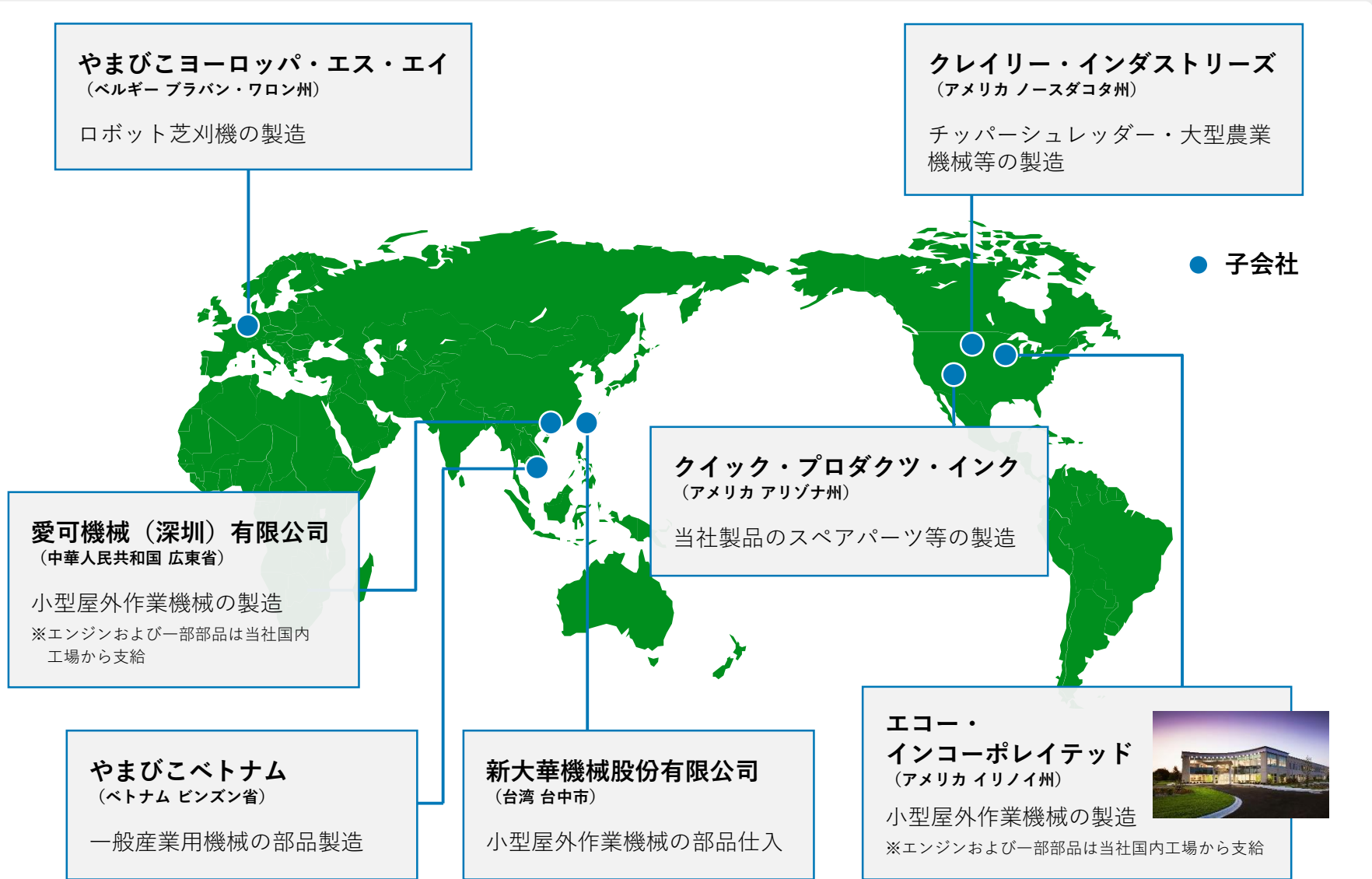


## 生産関連子会社

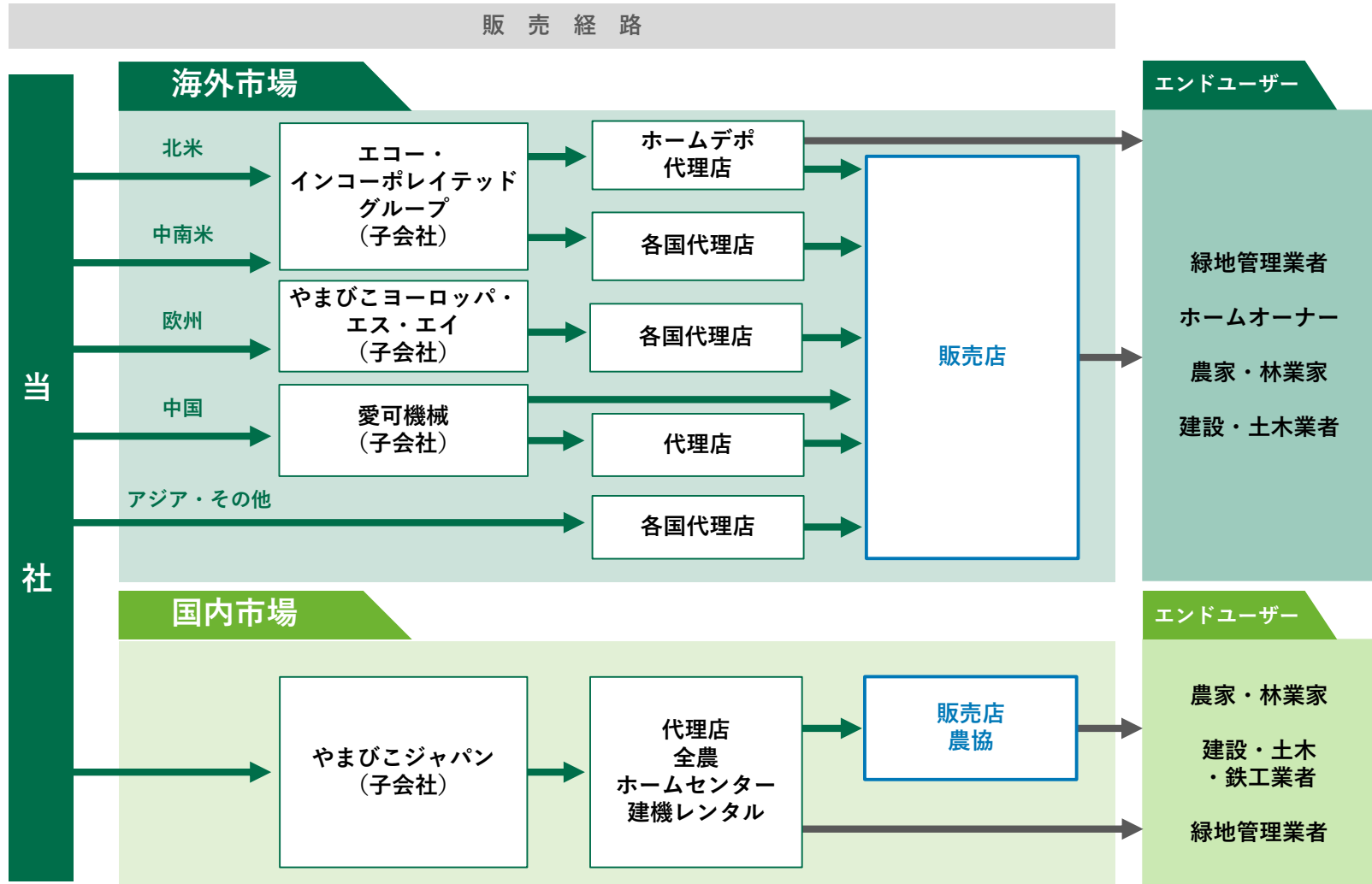
- 追浜工業株式会社 (横須賀市) : 電装部品
- 双伸工業株式会社 (青梅市) : 樹脂部品
- 株式会社ニューテック (長野市) : 試作部品
- やまびこエンジニアリング株式会社 (安芸高田市) : 板金加工



# 海外生産体制



# 主な販売経路



# 海外市場での販売とユーザー

## 販売店

ホームセンター、農機具店、ハードウェアストア、販売代理店など



- 海外における販売店ではプロユーザーを意識した高付加価値製品群を取りそろえて対面販売
- ホームセンターにおいてはハイエンドホームユーザー向けに品揃え

## エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業者



建設・土木業者



# 日本市場での販売とユーザー

## 販売店

農協、農機具店、建機レンタル会社、ホームセンターなど



- プロユーザー向けには販売店や代理店と協力しながら展示会を実施し、実演や試乗を通じて販売
- 建設向けは、金物店や建機レンタル会社を通じて、個人ユーザーにはチェーン展開するホームセンターなどで販売

## エンドユーザー



緑地管理業者

建設・土木・  
鉄工業者



農家・林業家

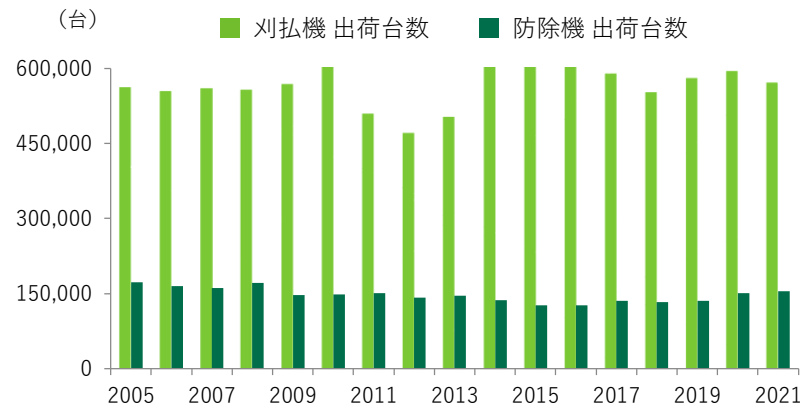
# 主なグループ会社の状況

	海外	小型屋外作業機械 (OPE)	農業用管理機械	一般産業用機械
生産販売		エコー・インコーポレイテッド やまびこヨーロッパ・エス・エイ 愛可機械	クレイリー・インダストリーズ	エコー・インコーポレイテッド
生産		クイック・プロダクツ・インク 新大華機械		やまびこベトナム
販売		ゴールデンイーグル ディストリビューティング		
	国内			
販売		やまびこジャパン		
生産		追浜工業 双伸工業		やまびこエンジニアリング

## 関連指標等

事業	関連指標等
小型屋外作業機械（OPE）	（一社）日本農業機械工業会出荷実績（刈払機）、米価 等
農業用管理機械	（一社）日本農業機械工業会出荷実績（防除機）、米価 等
一般産業用機械	（一社）日本陸用内燃機関協会（携帯発電機）、 （一社）日本建設機械工業会出荷金額統計（その他建設機械）、 建設関連業等の動態調査報告、工作機械受注高 等

## 出荷実績



注：会員企業の入退会に伴い、2014年4月より報告会社数が変更。  
 （防除機：7社→6社、刈払機：11社→12社）  
 （一社）日本農業機械工業会出荷実績



（一社）日本陸用内燃機関協会携帯発電機研究会集計（3kVA以下）

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

## お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 企画・経理本部 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : [ir6250@yamabiko-corp.co.jp](mailto:ir6250@yamabiko-corp.co.jp)